

## 平成 27 年度農作物病虫害発生予察技術資料第 1 号

平成 27 年(2015 年) 4 月 1 4 日  
山 口 県 病 害 虫 防 除 所

### タマネギ腐敗病の発生状況と防除対策について

4 月上旬の巡回調査の結果、タマネギの腐敗病はやや多い状況でした。ついては、下記を参考に防除の徹底をお願いします。

#### 記

#### 1 発生状況

4 月上旬の巡回調査では、発生ほ場率 14.3% (平年 4.6%)、発病株率 0.6% (平年 0.2%) で、平年に比べやや多かった (図)。

#### 2 今後の予想

##### (1) 発生程度

**やや多**

##### (2) 発生の予想

気象予報では 4 月中旬～5 月上旬の平均気温は高く、降水量は平年並または多い見込みであり本病の発生が助長されると考えられる。

#### 3 防除対策

(1) 排水不良は発病を助長するので、ほ場の排水を良好にする。

(2) 伝染源となる発病株(写真 1、2、3)を早期に抜き取り、ほ場外に持ち出し適正に処分する。

(3) 現在、本病の発生が認められるほ場では、薬剤防除を徹底する(表)。

(4) 貯蔵中の発病を防ぐため、収穫は晴天日に行い、球を傷つけないよう注意する。

#### 4 防除上注意すべき事項

(1) 耐性菌発生防止のため、異なる FRAC(殺菌剤)コードの薬剤を輪番使用する。

(2) 適正な薬剤散布作業の実施、農薬使用基準の遵守など安全で効果的な防除に努める。

#### 【参考：殺菌剤コード (FRACコード) とは？】

殺菌剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のこと。

本コードが異なる薬剤を使用することで、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができる。

※「表 タマネギべと病の防除薬剤一覧」の「殺菌剤コード」欄参照

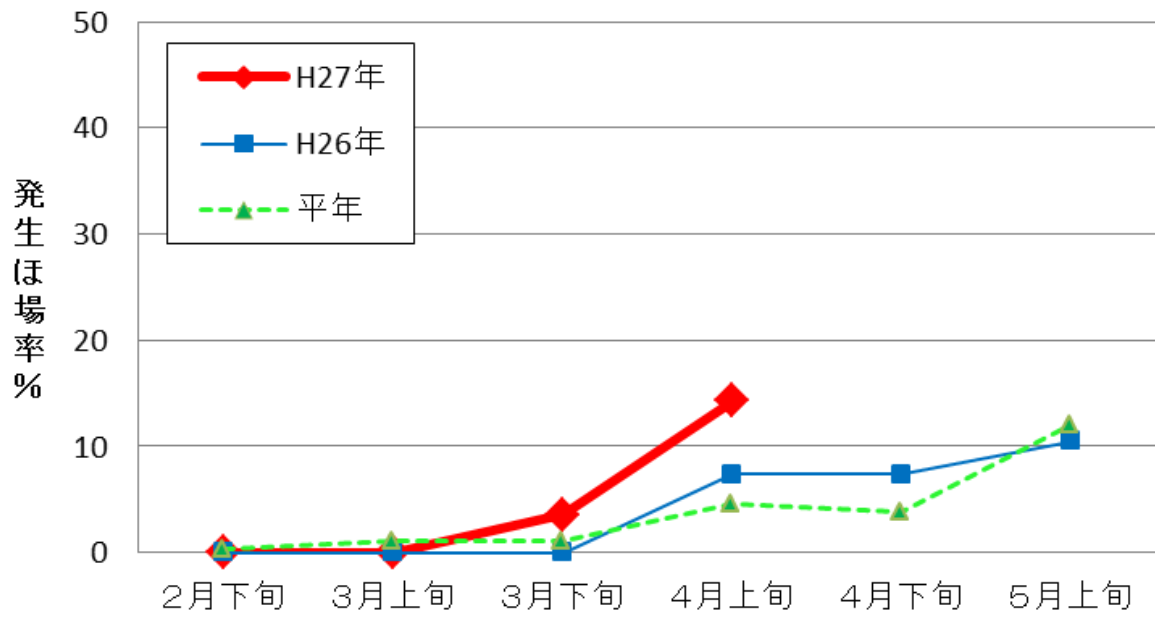


図 タマネギ腐敗病の発生推移



写真1 タマネギ腐敗病の発病株



写真2 タマネギ腐敗病の発病株



写真3 タマネギ腐敗病の抜き取り株

表 タマネギ腐敗病及び軟腐病の防除薬剤一覧（平成27年4月現在）

系統	殺菌剤コード	一般名	商品名	軟腐病	腐敗病	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用方法	成分含む 使用回数
生物農業		シュードモナス ロデシア水和剤 5×10 <sup>9</sup> CFU/g	マスタピース水和剤 (-)(-)	○		1000~2000倍、100~300リットル/10a	発病前~発病初期	-	散布	-
		非病原性エルビニア カロトポーラ水和剤 5×10 <sup>10</sup> CFU/g	バイオキーパー水和剤 (-)(-)	○		500~2000倍、150~300リットル/10a		-	散布	-
抗生物質	25	ストレプトマイシン水和剤 25%	マイシン20水和剤(普)(A)	○		1000倍	収穫7日前まで	5回以内	散布	ストレプトマイシン5回以内
	26	バリダマイシン液剤 5%	バリダシン液剤5(普)(A)	○		500倍、100~300リットル/10a	収穫3日前まで	5回以内	散布	バリダマイシン5回以内
-	31	オキシロニック酸水和剤 20%	スターナ水和剤(普)(A)	○		1000倍、100~300リットル/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	オキシロニック酸5回以内
銅	M1	有機銅水和剤 40%	キノドー水和剤40(普)(C)	○		600倍、100~300リットル/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	有機銅3回以内
		水酸化第二銅 46.1%	コサイド3000(普)(B)	○		1000~2000倍、100~300リットル/10a	-	-	散布	-
		銅水和剤 58%	Zボルドー(普)(B)	○		500倍、100~300リットル/10a				
		銅水和剤 61.4%	コサイドDF(普)(B)	○		1000倍				
		銅水和剤 76.8%	コサイドボルドー(普)(B)	○						
		ノニルフェノールスルホン酸銅水和剤 40%	ヨネボン水和剤(普)(B)	○		500倍、100~300リットル/10a				
無機銅	NC M1	炭酸水素ナトリウム・銅水和剤 46.30%	ジーファイン水和剤(普)(A,C)	○		1000倍、150~500リットル/10a	収穫前日まで	-	散布	-